

第65期  
中間報告書

2019.4.1~2019.9.30

山一電機株式会社

証券コード：6941

## ■ グループ経営理念

山一電機グループは、人・企業・社会・地球とのより良い結びつきを柔軟な技術力と発想力をもって意欲的に創造する「もっとしなやかにベターコネクション」をコーポレートスローガンに、お客様の価値創出に貢献します。

### 1. 人の尊重

人を育て、人を活かし、会社の発展と個人の幸せの共有を目指します。

### 2. 企業価値の最大化

株主をはじめとしたステークホルダーの要請に応え、適正利潤を追求し、企業価値の最大化を目指します。

### 3. 企業品質の向上

信頼の最大の基盤である優れた製品品質と企業品質を提供することによって、顧客の満足を図ります。

### 4. 技術立社への挑戦

開発型企業として、たゆまず技術の創造と革新に挑戦し、半歩先をゆく技術を提供します。

### 5. 社会的役割の達成

常に社会との調和を図り、社会から信頼される企業であり続けます。

## 経営方針（第63期～第65期）

— 「お客様が満足いただける製品・サービスを提供できる会社」に成長する —

### 成長戦略

#### 技術力の強化によるグローバルニッチTOP製品の創出

- 伸びる地域・伸びる市場・元気な顧客・儲かる製品
- ユニークな製品、差別化した製品の開発

#### テストソリューション事業

- 新技術開発による販売拡大
- 新市場・新規顧客開拓による販売拡大
- グローバル連携強化による顧客サービスの向上

#### コネクタソリューション事業

- グローバルニッチTOP製品の創出
- IoTを視野に入れて通信・車載・産機・医療の4市場向け製品の拡充

#### 光関連事業

- 顧客の開発段階からのソリューション提案力強化
- 戦略的な新規開拓活動推進

### 構造改革

#### グループの効率化を更に追求

- グローバル管理体制の強化
- グローバルのモノづくりの効率化推進
- グローバルシステムの強化

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のことと  
 拝察申し上げます。2020年3月期第2四半期の連結業績  
 につきましてご報告申し上げます。



代表取締役社長

太田 佳孝

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、底堅い経済成長が維持されていた米国において製造業を中心に減速傾向となり、中国では貿易摩擦の影響により経済成長の減速が続く、欧州では英国のEU離脱問題、中東における地政学リスクの高まり等により、全世界的に景気の減速が続き、日本においては、雇用環境の改善は続いているものの、輸出の伸び悩みから景気の回復は緩やかな状況となりました。

このような状況の下、当社グループは3ヵ年中期経営計画(2018年3月期～2020年3月期)に基づき、「お客様が満足いただける製品・サービスを提供できる会社」に成長することを引き続き目指し、「グローバルに連携し、未来につながる製品の創造」という観点から、「成長戦略」と「構造改革」を戦略の核に取り組み、経営基盤の強化と収益の拡大を図ってまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高13,480百万円(前年同期比7.6%減)、営業利益1,698

百万円(同26.2%減)、経常利益1,652百万円(同31.6%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益1,468百万円(同22.2%減)となりました。

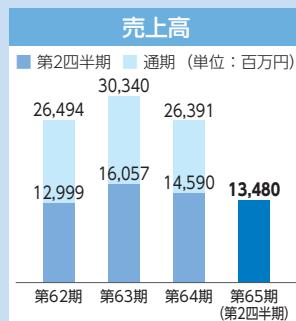
2020年3月期の見通しは、米中貿易摩擦、さまざまな地政学リスクの高まりによる世界経済への影響等、予断を許さない市場環境が続くと予想されます。

通期連結業績予想につきましては、2019年5月15日に公表しました売上高27,500百万円(前期比4.2%増)、営業利益2,800百万円(同3.7%減)、経常利益2,700百万円(同4.6%減)、親会社株主に帰属する当期純利益2,100百万円(同10.4%減)を維持しております。

なお、中間配当につきましては、1株当たり10円といたしました。期末配当につきましては1株当たり19円、通期では29円を予定しております。

株主の皆様におかれましては、今後ともますますのご支援とご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

## ■ 連結業績ハイライト



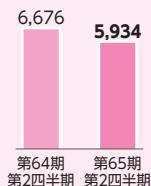
## テストソリューション事業

検査用ICソケット、プローブカード、FPC検査用ソケット、半導体テストサービス

売上高構成比  
44.0%

(単位：百万円)

売上高



営業利益



### ボールグリットアレイ用小型ソケットを開発

自動車の電子化や電動化が進み、先進運転支援システム(ADAS)の普及や電気自動車やハイブリッド車のシェアが高まっています。これらに寄与している車載半導体は高性能、高信頼性が求められ、外部接続数を多くできるボールグリットアレイ(BGA)のパッケージが増えています。当社では長年にわたり蓄積した技術力で、ボールグリットアレイ(BGA)用小型ソケットを開発しました。今後お客様ニーズにお応えする技術開発に取り組み、最適なテストソリューションを提供してまいります。



ボールグリットアレイ用小型ソケット

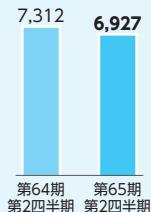
## コネクタソリューション事業

コネクタ、実装用ICソケット、フレキシブルプリント配線板(YFLEX®)

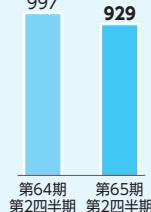
売上高構成比  
51.4%

(単位：百万円)

売上高



営業利益



### 200Gbpsイーサネット対応 光通信モジュール用コネクタラインアップ

イーサネット伝送の基幹通信システム市場は、100Gbps伝送の次の規格として400Gbps伝送システムの開発が進んでおりますが、一部の地域では200Gbps伝送システムの市場投入が開始されております。100Gbps伝送システムで大きなシェアを獲得している当社は、CFP Familyに200Gbpsイーサネット対応光通信モジュール用コネクタをラインアップし、海外を中心に量産出荷が拡大しております。今後、さらにデータ量の増加とともに高速化が加速する市場への対応に当り、当社は、市場トレンドを先取りし、半歩先を行く製品開発を進めてまいります。  
※bps=ビット毎秒(光通信速度)



200Gbpsイーサネット対応  
光通信モジュール用コネクタ (CFP)

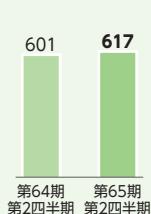
## 光関連事業

RGBフィルタ、蛍光ダイクロイックフィルタ、ショート/ロングパスフィルタ、半導体レーザー光源

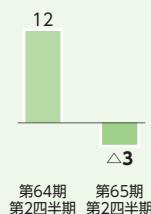
売上高構成比  
4.6%

(単位：百万円)

売上高

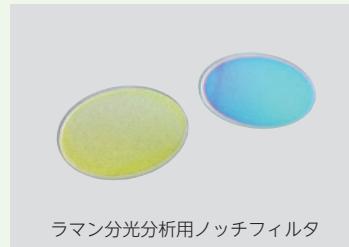


営業利益



### 狭反射帯域と広透過帯域を実現した ラマン分光分析用ノッチフィルタを開発

ラマン分光分析法は試料の複雑な前処理や蛍光物質の添加が必要、非破壊という特長を持ち、医薬品や半導体材料の開発に適用されています。さらに微生物や細胞を生きたまま同定できる分析方法として食品の安全性チェック、環境保全など、さまざまな分野への応用も期待されています。光関連部門では、独自の超多層膜形成技術を発展させ、ラマン分光分析に不可欠なノッチフィルタを開発いたしました。今後各分野に向けた製品開発を進めてまいります。



ラマン分光分析用ノッチフィルタ

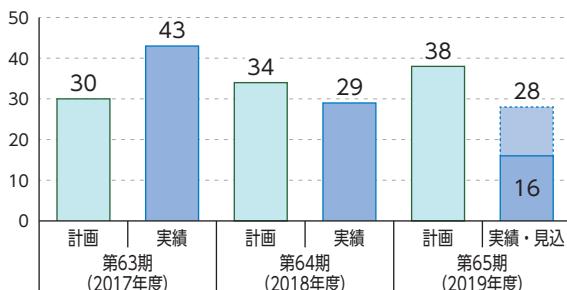
## 中期経営計画(第63期～第65期)進捗のご報告

### 「お客様が満足いただける製品・サービスを提供できる会社」に成長する

・・・ 中期経営計画の最終年度 ・・・

#### 中期経営計画：連結営業利益目標と実績

(単位：億円)



#### ●業績目標

連結売上高 853億円以上/3ヵ年累計額

連結営業利益 102億円/3ヵ年累計額

中期計画目標値

2019年度計画

●ROE 10%以上

10%以上

●配当 連結配当性向30%

30%を目指す  
(2019年度末)

●設備投資 70億円/3ヵ年累計額

21.7億円

「お客様が満足いただける製品・サービスを提供できる会社」に成長することを引き続き目指し、「グローバルに連携し、未来につながる製品の創造」という観点から、「成長戦略」と「構造改革」を戦略の核に取り組み、経営基盤の強化と収益の拡大を図ってまいりました。「構造改革」の一環として、2019年6月に生産性および生産能力向上を目指し、当社グループで主力工場となるPricon Microelectronics, Inc. (フィリピン)の敷地内に成型工場を増築し、生産体制の強化を図りました。また、次期中期経営計画(2020年4月1日から2023年3月31日まで)の策定を進めており、詳細は2020年5月に開示の予定です。

#### ◇基本戦略

##### I. 成長戦略：グローバルニッチTOP製品の創出

- ・「伸びる地域・伸びる市場・元気な顧客・儲かる製品」
- ・「ユニークな製品、差別化した製品の開発」

##### II. 構造改革：グループの効率化を更に追求

- ・グローバル管理体制の強化
- ・グローバルのモノづくりの効率化推進
- ・グローバルシステムの強化

## 自己株式の取得について

取締役会決議内容			自己株式取得実績		
決議日	取得上限株数	取得上限金額	取得株数	取得金額	取得期間 (約定日基準)
2019年5月31日	650,000株	600,000,000円	584,800株	599,945,000円	2019年6月4日から 2019年8月5日まで

配当と自己株式取得により、引き続き総還元性向の向上を図ってまいります。  
なお、当第2四半期末においての自己株式の所有数は1,919,427株となります。

# 連結財務諸表

## ■ 第2四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当第2四半期末 (2019年9月30日現在)	前期末 (2019年3月31日現在)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>18,068</b>	<b>17,628</b>
現金及び預金	7,593	8,318
受取手形及び売掛金	5,703	4,486
たな卸資産	3,820	3,675
その他	950	1,148
<b>固定資産</b>	<b>12,878</b>	<b>11,679</b>
有形固定資産	11,376	9,873
無形固定資産	114	147
投資その他の資産	1,387	1,657
<b>繰延資産</b>	<b>-</b>	<b>0</b>
<b>資産合計</b>	<b>30,946</b>	<b>29,308</b>
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	<b>6,686</b>	<b>6,082</b>
支払手形及び買掛金	1,445	1,284
短期借入金	2,841	2,889
その他	2,399	1,908
<b>固定負債</b>	<b>1,971</b>	<b>938</b>
長期借入金	370	549
その他	1,600	388
<b>負債合計</b>	<b>8,658</b>	<b>7,020</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>	<b>23,064</b>	<b>22,653</b>
資本金	10,084	10,084
資本剰余金	1,775	1,793
利益剰余金	13,388	12,403
自己株式	△ 2,183	△ 1,627
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>△ 1,034</b>	<b>△ 602</b>
新株予約権	148	116
非支配株主持分	109	119
<b>純資産合計</b>	<b>22,288</b>	<b>22,288</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>30,946</b>	<b>29,308</b>

## ■ 第2四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
<b>売上高</b>	<b>13,480</b>	<b>14,590</b>
売上原価	8,643	9,214
<b>売上総利益</b>	<b>4,837</b>	<b>5,375</b>
販売費及び一般管理費	3,138	3,074
<b>営業利益</b>	<b>1,698</b>	<b>2,300</b>
営業外収益	71	149
営業外費用	117	34
<b>経常利益</b>	<b>1,652</b>	<b>2,415</b>
特別利益	125	0
<b>税金等調整前四半期純利益</b>	<b>1,778</b>	<b>2,415</b>
法人税、住民税及び事業税	334	497
法人税等調整額	△ 26	29
<b>四半期純利益</b>	<b>1,469</b>	<b>1,888</b>
非支配株主に帰属する四半期純利益	1	1
<b>親会社株主に帰属する四半期純利益</b>	<b>1,468</b>	<b>1,887</b>

## ■ 第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	当第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	前第2四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,515	2,604
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 619	△ 586
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,477	△ 1,908
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 143	174
現金及び現金同等物の増減額	△ 725	283
現金及び現金同等物の期首残高	8,318	7,188
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,593	7,472

## 会社の概要

商号	山一電機株式会社
所在地	東京都大田区南蒲田2丁目16番2号
設立	1956年11月
資本金	100億8,410万円
従業員数	365名 (連結 1,842名)
主な事業内容	1. テストソリューション事業 2. コネクタソリューション事業 3. 光関連事業

## 株式の状況

発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式総数	23,329,775株
株主数	6,327名
単元株式数	100株
大株主	

株主名	持株数	持株比率
	株	%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	5,290,700	24.71
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1,788,600	8.35
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)	812,300	3.79
資産管理サービス信託銀行株式会社 (証券投資信託口)	714,300	3.33
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505019	445,300	2.07
山一電機取引先持株会	421,200	1.96
日本生命保険相互会社	421,075	1.96
MSCO CUSTOMER SECURITIES	415,600	1.94
山一電機従業員持株会	384,488	1.79
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5)	285,800	1.33

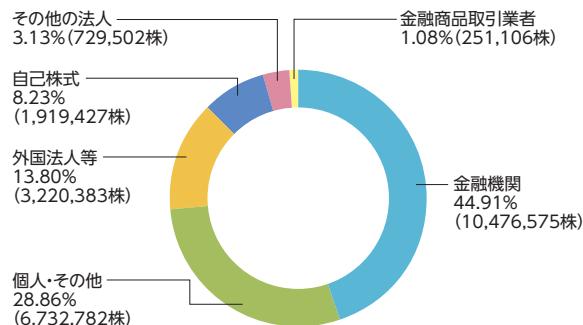
(注) 1. 当社は、自己株式を1,919,427株所有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

2. 持株比率は自己株式1,919,427株を控除して計算しております。

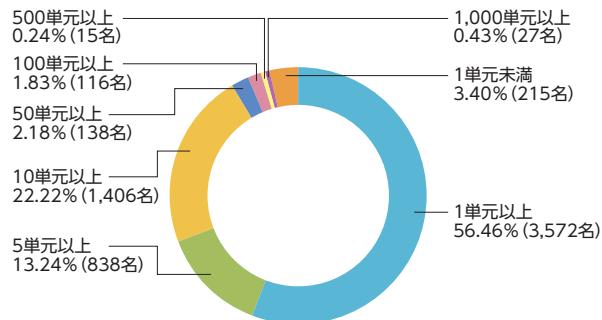
## 役員

代表取締役社長	太田 佳孝	常勤監査役	加藤 勝市
取締役	亀谷 淳一	社外監査役	多田 郁夫
取締役	土屋 武	社外監査役	岡本 忍
取締役	松田 一弘		
取締役	岸村 伸洋		
社外取締役	楠 美憲章		
社外取締役	村田 朋博		
社外取締役	佐久間 陽一郎		

## 所有者別株式数分布状況



## 所有株数別株主数分布状況



## 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主 確定日	3月31日
中間配当金受領株主 確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所 (市場第一部：証券コード6941)
公告の方法	電子公告により行う (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。)

### 【お知らせ】

- 株主様の住所変更、買取請求、配当金の振込指定その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取扱いきませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

## IRサイトのご案内

当社では、Web上で「投資家情報」として次のような情報を公開しています。今後も、「株主のみなさまへ」の情報開示の内容を充実し、迅速に開示を行っていく所存です。

Web上で  
ご覧いただける  
投資家情報

- IRカレンダー
- 決算短信
- 株主のみなさまへ
- 有価証券報告書
- 株主総会
- 株主優待制度

<http://www.yamaichi.co.jp/ir/tabid/87/Default.aspx>

 山一電機株式会社

〒144-8581 東京都大田区南蒲田2丁目16番2号  
☎03-3734-0115 (代表) ☎03-3734-0120  
ホームページアドレス <http://www.yamaichi.co.jp>

 UD  
FONT

見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

